

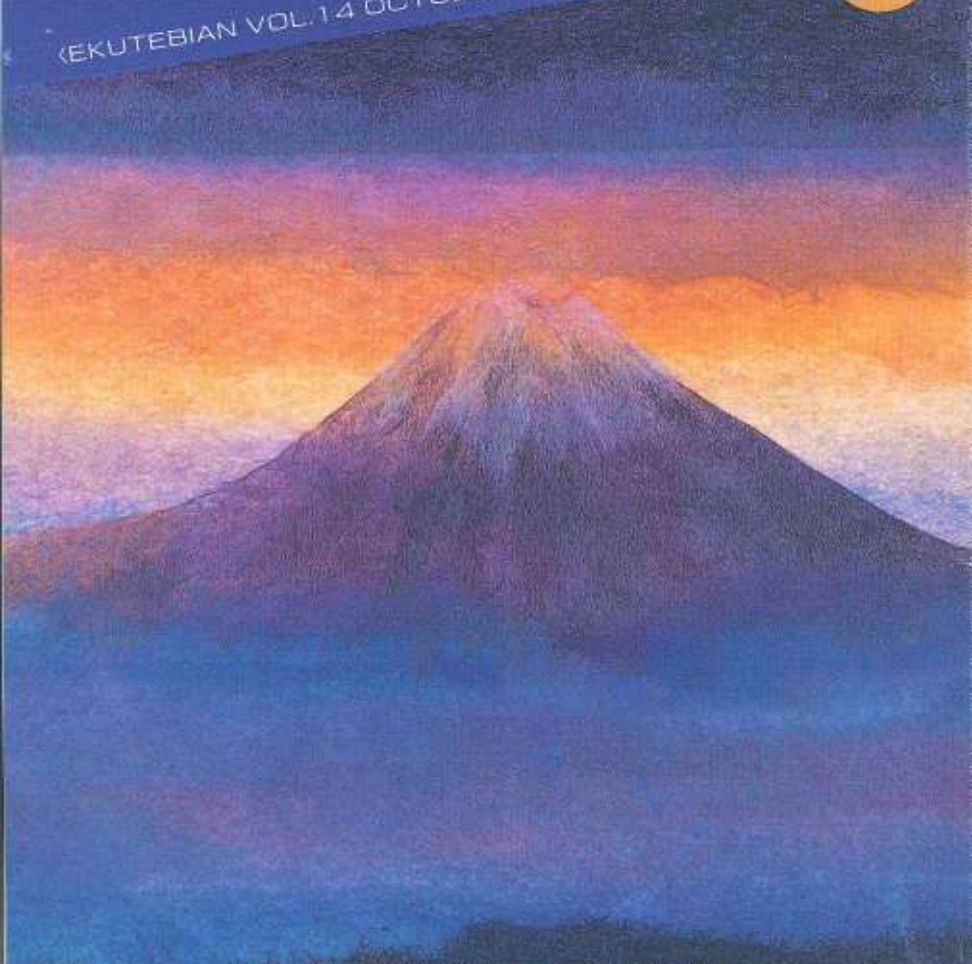
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

(EKUTEBIAN VOL.14 OCTOBER 1995 EKUTEBIAN)

10



まい あーと ■和紙絵画「富士」by 磯野 清美



形どり、切抜き、接着剤ではめ込んで、最後にやすりがけ。工程はシンプルだが、何よりも木への愛情が大切。中村さんはいつも木に「話しかけ」ている。



中村道雄さんと組み木絵 コースターづくりをたのしむ

「組み木絵」作家としてその優しい作風を全国に送り続ける中村道雄さん。日の出町のアトリエを訪ね、今月は組み木絵づくりに挑戦した。入門編として薦めてくれたのはコースターづくり。組み木絵づくりの基本がわかる。が、入門編とはいえ難しい。特に糸鋸で切り抜く作業、木の“目”がいうことを聞いてくれない。自分が試されている気がするでしょう、と中村さんが笑う。掌に乗るほどの木片に、自然の意志を感じた。“もっと謙虚に生きろよ…”





トンネルの直径は約2m。送電ケーブルは上段が6千ボルト（一般家庭・事務所等）、下段が6万ボルト（デパート・ビル等）。触れてみると微かな振動、電気を「さわって」しまった。



●えくてびあんレポート●

こちら、 地下12メートルの立川です



点検の日は昼食時以外、一日中トンネルの中だという。地中課勤務5年の石田さんは「静かで落ち着きますよ」と笑うが、暗く静かな地中で、延々と続く送電線を点検する作業は、決して楽なものではない。



3階建のビルの高さと同じぐらい

地下12メートルの深さに

この洞道(トンネル)は造られている。

左右に延々と伸びているのは送電ケーブル。

立川中のビルや家屋に電気を送っている。

この中にいると地上の喧騒が全く信じられない。

よく耳を澄まして、走る車の音がやっと聞こえる。

昨日も、今日も、明日も、わたしたちの足の下で

ライフラインを守り続けている人たちがいることを初めて知った。

地上に上がると、至る所で防災訓練が行われていた。

この日は「防災の日」だった。

協力：東京電力・地中線課

撮影：五来孝平



多摩川の朝

3

写真：鈴木克吉
俳句：やまやのぎく

しろがねの

すすき多摩川の

小径かな